

いわみかぐらし 石見神楽を知っていますか？

いわみかぐらしにしむらかぐらしちゅう
石見神楽 西村神楽社中

たいひょう ひだか ひとし
代表 日高 均

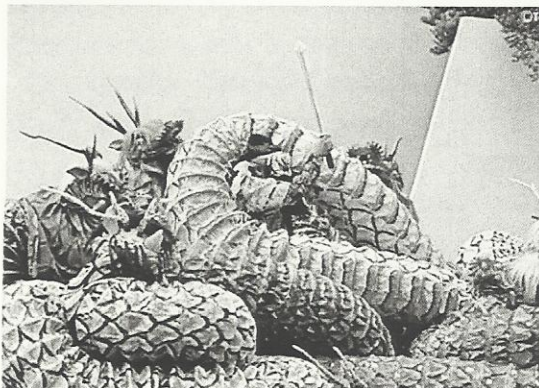


えんもく
演目なのです。

その大蛇の胴体の長さは約18メートルで、竹と紙だけで作られています。大蛇の頭や胴体に使われている紙は「石州和紙」と呼ばれ、くにじゅうようむけいぶんかざいねん国の重要無形文化財で、2009年にはユネスコの無形文化遺産にも登録されたとても丈夫な紙です。

この「大蛇」という演目は、出雲神話に登場する須佐之男の命の大蛇退治の物語で、約30演目ある石見神楽の中でも特に有名なものです。この物語は約千三百年前の最古の歴史書、古事記や日本書紀に書かれている日

みなさんは神様と巨大な龍との格闘場面をどこかで見たことはありませんか？ それは石見神楽だったかもしれませんね？ 石見神楽とは、島根県の浜田市を中心とする地域に古くから伝わり、お祭りの58時に神社で一晩中演じられる伝統芸能です。龍に見えるのは実は巨大な蛇の怪物で、神様と激しい戦いを繰り広げるその物語は、石見神楽の中でもクライマックスに演じられる「大蛇」(※①)という



本神話から題材をとったものです。その内容は、天を司る太陽神である天照皇大神が弟の須佐之男命の悪行の為に天岩戸に引き籠ってしまい、この世は暗闇となりさまざまな禍が発生しました。この行いの為に高天原を追放された須佐之男命は、出雲の国に降り立ち簸川（現在の斐伊川）上流の鳥髪（現在の奥出雲町鳥上）に差し掛かった時に川上から箸が流れてきたので、上流に人が住んで居るの



ではと思ひ川を上ってみると、美しい娘（奇稲田姫）と老夫婦が泣いていました。老夫婦の話によると、夫婦には八人の娘がいましたが、このあたりには八つの頭と八本の尾を持ち、目はホオズキのように真赤で、背中には苔や木が生え、腹は血でただれ、八つの谷、八つの峰にまたがるほど巨大な蛇が住んでいて、毎年やって来て上の七人の娘を食べてしまいました。今年も大蛇のやって来る時期が

近づき、このままでは最後に残った末娘の奇稲田姫も食べられてしまうので泣いているのです。須佐之男命は奇稲田姫を妻としてもらいうけることを条件に、八岐大蛇退治を約束しました。

まず、奇稲田姫を櫛に変え、自分の髪に挿すと、老夫婦に、強い酒（八塩折之酒）を造らせ、垣を作って八つの門を作り、それぞれ酒を満たした酒桶を置くように言いました。そこに八岐大蛇がやって来て八つの頭をそれぞれの酒桶に突っ込んで酒を飲み酔って寝たところを、須佐之男命は十拳剣を抜いて八岐大蛇を切り刻んでしまいました。その際、尾を切り刻んだとき剣の刃が欠

けたので、これは不思議だと思ひ尾を裂いてみると一本の刀が出てきました。

須佐之男命は姉の天照皇大神にこの刀を献上しました。これが天叢雲剣のちの草薙剣で、皇位継承の三種の神器（※①）の一つとして今も残っています。もちろん、石見神楽の演目は「大蛇」だけではありません。

演目の数は30以上あります。大きく分けると各種の採り物（扇子や幣、刀・鈴など）を持ち仮面を着けずに舞う物語性をもたない「神事舞」と、神様や鬼などの仮面を着けて舞い物語性のある「能舞」とに分けられます。その演目には、古事記、日本書紀に登場する物語を題材としたものが多くあり、「天の岩戸開き」「日本武尊の東西平定」「大国主命の国譲り」「天孫降臨」「大国主命の八十神退治」「恵比須様の鯛釣り」「須佐之男命の大蛇退治」などがあり60ます。

また、北野・太宰府天満宮などに祀られている菅原道真公の神楽「天神」、中国の物語で端午の節句に飾られる鐘馗様の悪魔退治「鐘馗」などもあり、いずれも、金や銀の糸で刺繍した豪華な衣装を着て舞うのもその特徴と言えるでしょう。中国地方の山地には備中神楽・出雲神楽・芸北神楽・石見神楽など多くの神楽が伝えられていますが、その中でも石見神楽の団体の数は浜田市だけで50団体以上、周辺の地域を含めると100団体を超えています。このように多くの神楽団体が現在でも活発に活動している芸能は他には例がないでしょう。

石見神楽は、集落の平安を祈ったり、収穫期に自然や神様への感謝をあらわす神事として、



かくしゅうらく じんじゃ よ てっ ほうのう こどもかぐら さか いわみかぐら でんしょう ちから
各集落の神社で夜を徹して奉納されています。また、子供神楽も盛んで石見神楽の伝承に力が
そそ きんねん ぜんこくかくち しょうえん きかい ふ がいこくこうえん おこな かつこく
注がれています。近年は全国各地での上演機会も増え、外国公演も行われアジア各国・アメリカ・
ロシア・ヨーロッパやインドなど世界各国での公演も行われています。

いわみかぐら み まつ はる なつ あき あ あき いちばん じゅうがつころ いわ
石見神楽を見られるお祭りは春・夏・秋と有りますが秋が一番のシーズンです。十月頃に石
みちほう しまねけん せいぶ い せいかいかつこく こうえん おこな
見地方（島根県の西部）にお出でになれば、休日の前の晩にはあちらこちらから神楽囃子が聞こ
えてきます。もし、機会があれば石見神楽をぜひ一度ご覧になってみてください。神話の世界で
ひとばんじゅうたの みな きこころ ま
一晚中楽しむことができます。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

ひだか ひとし
日高 均

いわみかぐら にしむらかくらしゃちゅうだいひょう

石見神楽 西村神楽社中代表。

ねんしょうわ ねん しまねけんはまだしうま

1954年(昭和29年) 島根県浜田市生まれ。

1976年(昭和61年) 西村神楽社中を結成、代表となり現在に至る。